



平成 25 年 12 月 24 日

各 位

会 社 名 ANAホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 伊東 信一郎
(コード番号 9202 東証第1部)
問合せ先 グループ総務・CSR部長 今西 一之
(TEL . 03-6735-1001)

貨物事業に関するお知らせ

当社 100%子会社の全日本空輸株式会社において、『貨物事業会社「株式会社 ANA Cargo」が始動します』を別紙のとおりとりまとめましたので、お知らせいたします。

以 上

貨物事業会社「株式会社 ANA Cargo」が始動します

～ 新事業会社の立ち上げによる貨物事業の更なる拡大 ～

～ 沖縄貨物ハブおよび貨物便ネットワークを拡充し利便性を更に向上 ～

ANA は、2014 年 4 月より、新事業会社「株式会社 ANA Cargo(以下、ANA Cargo)」による営業を開始し、お客様のニーズに機敏に対応できる体制を整え、更なる貨物事業の拡大を図っていきます。あわせて、運用開始 5 年目を迎える沖縄貨物ハブネットワークに、新たな路線として 2014 年 3 月から広州-沖縄、5 月からは沖縄-シンガポールを開設します。2014 年 1 月 1 日から運航を開始する沖縄-青島線に続く新規路線となり、これで沖縄貨物ハブは合計 12 地点を結ぶこととなります。

同時に、沖縄貨物ハブ以外の貨物便ネットワークにおいては、成田=広州線の新設(2014 年 1 月 1 日より運航)に続いて、2014 年 5 月からは成田=ジャカルタ線、シンガポール-成田線、成田-関西-上海線を就航させ、成田からの貨物便ネットワークも拡充します。

今後も ANA グループの旅客便ネットワークとフレイターネットワークをあわせたコンビネーションキャリアとして、利便性と輸送品質を最大限に高めるとともに、フレイタービジネスにおいては機材稼働率の向上によるユニットコストの低減などにより、収益基盤の強化・改革を推し進めてまいります。

新事業会社「ANA Cargo」は、グローバルなステージでイノベーションを実現することで、貨物事業のさらなる飛躍に向けた事業基盤を構築するとともに、収益性を向上させることで、ANA グループの経営ビジョンである『世界のリーディングエアライングループ』の実現の一翼を担ってまいります。

1. 新事業会社『株式会社 ANA Cargo』の設立

今後の事業拡大に向け、事業基盤を一新し、これまで ANA 貨物事業室が主に担っていた企画・マーケティング・販売計画等と、ANA ロジスティクスサービス(株)が担っていたエアラインセールス・上屋ハンドリング・ソリューション(フォワーディング/ロジスティクス)等の貨物事業を統合し、一体的に運営する新たな事業会社である『株式会社 ANA Cargo』(2013 年 10 月設立)を、2014 年 4 月より営業開始いたします。これにより、収益性の向上に向け、マーケティング機能や品質・お客様のフォロー体制の強化、および間接業務の削減など、貨物事業における様々なテーマに対し、スピード感を持って実現できる体制を構築します。

【新貨物事業会社の詳細】

- ・会社名 株式会社 ANA Cargo
- ・代表者 代表取締役社長/岡田 晃 (ANA 貨物事業室長 常務取締役執行役員)
- ・営業開始日 2014 年 4 月 1 日
- ・株主 ANA ホールディングス(株)100%
- ・社員数 約 900 名
- ・本店所在地 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

【新貨物事業会社の目指す姿】

「Innovation Pioneer」「Global Network」「Japan Quality」の 3 つの Value をベースに、グローバルステージにおいてイノベーションを実現し、国際物流の一翼を担ってまいります。

- ・常に先駆者として革新的な発想で事業を行い、世界中のお客様に豊かな未来をお届けします。
- ・フレイター&ANA グループの旅客機ネットワークを最大限に活かし、世界中のお客様からのニーズにお応えします。
- ・品質面での安心感や信頼感を提供し、世界中のお客様から愛される存在になります。

※ANA Cargo のロゴもリニューアルを予定しています。

2. 沖縄貨物ハブの新しいネットワーク

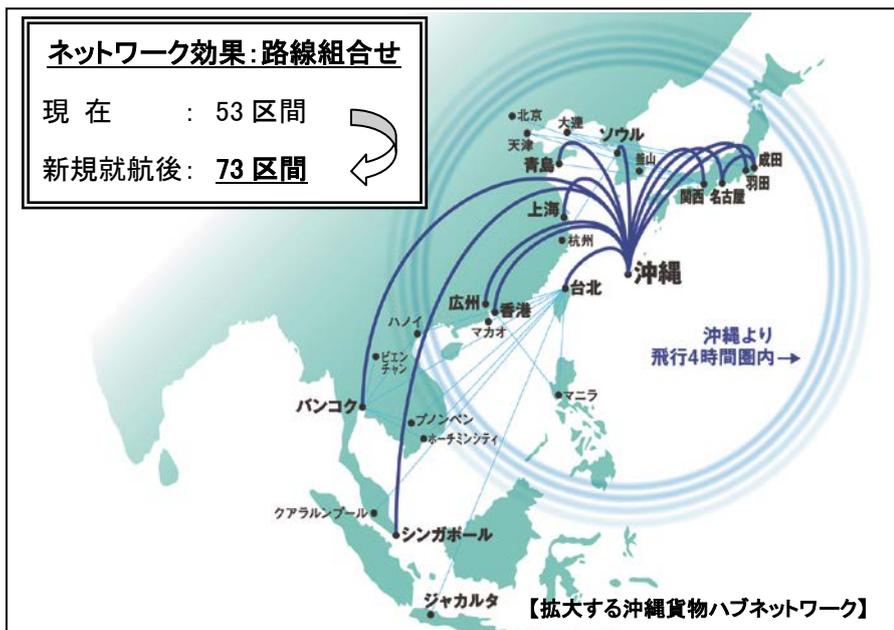
沖縄貨物ハブ路線として10路線目となる沖縄-青島線を2014年1月1日(水)に運航開始します。また、2014年3月5日(水)からは広州-沖縄、2014年5月からは沖縄-シンガポール線を新規開設することで、沖縄からの貨物便就航地点は合計12地点となります。これにより、アジア・中国の主要都市との路線を網羅し、アジア内を往来する旺盛な航空貨物需要を取り込んでまいります。

路線	内容	実施時期	現行	変更後
沖縄-青島 *1	新規開設	2014年1月1日～	---	B6F(6片道/週)
広州-沖縄	新規開設	2014年3月5日～	---	B6F(6片道/週)
沖縄-シンガポール	新規開設	2014年5月～ *2	---	B6F(6片道/週)

*1 プレスリリース第13-031号でご案内している路線で、関係当局から認可を取得した為、2014年1月1日から運航を開始します。

*2 運航開始時期は、5月を予定しており、開始日について現在調整中です。

(注2) 路線の標記において、『-』は片道を、『=』は往復を表しています。



3. 貨物便ネットワークの更なる充実

沖縄貨物ハブ以外のフレイターネットワークにおいては、2014年1月1日(水)より成田=広州線、2014年5月より成田=ジャカルタ線、シンガポール-成田線を開設、成田-関西-上海線を再開します。

路線	内容	実施時期	現行	変更後
成田=広州*1	新規開設	2014年1月1日～	---	B6F(3往復/週)*2
成田-広州	路線変更 増便	2014年3月4日～	成田=広州 B6F(2往復/週)	B6F(6片道/週)
青島-成田	増便	2014年3月30日～	B6F(6片道/週)	B6F(7片道/週)
成田=ソウル	増便	2014年3月30日～	B6F(6往復/週)	B6F(7往復/週)
成田=ジャカルタ	新規開設	2014年5月～ *3	---	B6F(3往復/週)
シンガポール-成田	新規開設	2014年5月～ *3	---	B6F(6片道/週)
成田-関西-上海	再開	2014年5月～ *3	---	B6F(3片道/週)
上海-成田	増便	2014年5月～ *3	B6F(6片道/週)	B6F(9片道/週)

*1 2013年5月17日第13-031号でご案内している内容で、関係当局から認可を取得した為、2014年1月1日から運航を開始します。

*2 2014年2月5日～2014年3月1日は2往復/週に減便(成田発:水・金曜日、広州発:木・土曜日運航)します。

*3 運航開始時期は5月を予定しており、開始日について現在調整中です。

(注1) 上記路線計画は関係当局の認可を前提にしております。また、スケジュールは予定であり、都合により変更となる場合もございますので、予めご了承下さい。

(注2) 路線の標記において、『-』は片道を、『=』は往復を表しています。

(別紙資料)

1. 機材繰りの一例

- ・沖縄－青島－成田 沖縄からは沖縄貨物ハブのネットワークを活かし、日本およびアジアから組み立て工場の比較的多い、青島へ輸送される貨物を取り込む。
一方、青島発は電子製品の完成品など、日本や欧米マーケット向けの出荷が多い為、沖縄を経由せず、成田に輸送し、成田からのネットワークに接続させる。
- ・沖縄－シンガポール－成田 上記同様、シンガポールへは、沖縄を経由し、様々な出発地からの貨物を輸送する一方、シンガポール発については、消費マーケットである日本や欧米への輸送を取り込む。

このような機材繰りを行うことにより、沖縄貨物ハブに1路線開設すれば、様々な輸送可能区間が増え、今回の新規開設により、2014年5月時点では、現時点よりも20区間の拡大となる。

2. 沖縄貨物ハブ新規路線の一例(リードタイム短縮例)

■(これまで)現在の上海－シンガポールの輸送例・リードタイム

DAY-1 上海－那覇(00:35－3:40)
DAY-2 那覇－成田(6:20－8:40)
成田－シンガポール(17:20－23:50)
DAY-3 配送



■(今後)沖縄－シンガポールの開設による輸送例・リードタイム

DAY-1 上海－那覇(00:35－3:40)
DAY-2 那覇－シンガポール(5:10－9:20)
配送

那覇－シンガポール線を開設することにより、例えば上海(浦東)－シンガポールのリードタイムが、約14時間(ほぼ1日)短縮可能となり、夕方に上海(浦東)空港に搬入された貨物は、沖縄貨物ハブネットワークを経由することで、翌朝の9:20にはシンガポール空港に到着することができる。